

月刊 同友

やまがた



報告者 / 庄司 薫 氏
榎菓子工房 COCOイズミヤ 代表取締役

家族経営からの脱却 人が集い、
人がつながる地域のランドマークへ
社員が育ち、会社が輝く、
社員の成長が会社の原動力

第7分科会 山形



第56回中小企業問題全国研究集会 第7分科会



よい会社 よい経営者 よい経営環境をめざす
中小企業経営者の全国組織

2025年度スローガン

40年の歴史を礎に、
21世紀型企業づくりで地域と共に未来をひらこう

世界ぜんたいが幸せにならないければ、 個人の幸せはありえない



3月5日～6日、中同協第56回中小企業問題全国研究集会が「世界ぜんたいが幸せにならないければ、個人の幸せはありえない」をテーマに、盛岡市で開催されました。山形同友会が担当した第7分科会で庄司薫氏(㈱菓子工房COCOイズミヤ 代表取締役)が「採用・教育」のカテゴリーで報告しました。山形からは24名の参加者がそれぞれの分科会と記念講演で学びを深めました。参加者から感想が届きましたので、紹介します。

ハンズバリュー(株) 代表取締役 島田 慶資 氏

2日目の特別企画のパネルディスカッション「東日本大震災から15年『一社もつぶさない、つぶさせない』を愚直に掲げ続けて」が、今回の全研で最も心に残りました。

登壇された岩手沿岸部の経営者3名は、震災で街が壊滅する中、物資配送、合同入社式、朝市の立ち上げ、起業支援、商店街再生と、地域の仕事と暮らしを自らの手で取り戻してきた方々でした。気仙支部は現在130名、組織率30%超。その原動力は、例会づくりや勧誘の努力や工夫といった小手先の話ではなく、地域課題を本気で自社の経営課題として引き受けてきた覚悟そのものでした。

同友会は学びの場ではなく、実践の場なのだと思いが知らされました。そして何より、15年間泥まみれで地域

と向き合い続けてきた3名の姿が、かつていい大人に見えました。こういう人生を歩みたいと素直に思える、そんな報告でした。



(株)セルヴァン 代表取締役 東海林 武 氏

第4分科会では「値決めは経営」をテーマに、秋田同友会代表理事・武田亨氏が報告されました。グループ討論が非常に白熱し、粗利率向上に向け、各社が現状で価格転嫁交渉や原価管理に苦戦している中、「それも大事だが自社が地域・社会の課題解決に何ができるか?」という視点の重要性が提起されました。その視点で事業拡大に成功した企業の事例から、地域の困りごとを解決する「無くてはならない企業」になることが真の付加価値につながるとの議論が交わされました。

高付加価値経営への転換条件としては、スキル教育より先に「価値観教育」を行うべきとの意見が注目を集めました。新入社員に「なぜ働くのか」を問うことが価値観変革のきっかけとなり、価値観が育まれた後はスキル習得のスピードも格段に上がるとの実例も紹介されました。

厳しい外部環境の中、経営を抜本的に変えるには、経営指針に基づく理念浸透と価値観の共育が不可欠だと再認識させられる分科会でした。

(有)まるみつ 取締役 小関 稔 氏

今回の大会は同じ東北ということもあり初めて参加させていただきました。全国から集まってくる会員の熱量に驚きました。こんなにも大勢の方々が経営に真っ直ぐに向き合っているということに、日本もまだまだ「のびしろ」があるなと思いつつ、同時に自分も頑張らなくてはならないと焦りを感じました。

私が参加させていただいた第4分科会「値決めは経営『継続して賃上げできる企業』は高付加価値経営がつくる」では賃上げについて武田さんからご報告いただきました。その中で私が印象に残った部分は、会社の現状を従業員に包み隠さず公にするというものでした。なぜ会社の経営状況を開示するのか、それは会社の状態を皆で共有し、自分たちの賃金を上げるためにどのようにすればいいかを、従業

員と共に考えることで高付加価値経営を目指すというものでした。この学びを自社に持ち帰り、従業員と一体となって経営に取り組んでいく決意を新たにしました。



城北電気工事(株) 代表取締役 伊藤 誠 氏

私は第7分科会(株)菓子工房COCOイズミヤ 庄司社長報告)の座長を務めさせていただきました。庄司社長が実践されている「三位一体の経営」を、長い時間をかけて丁寧に続けてこられたこと、そして社員との信頼関係を地道に築いてこられた姿から、経営者としての姿勢と覚悟、まさに生き様を感じる報告でした。

翌日の岩泉ホールディングス(株)山下社長の講演では、地域における企業の存在意義の再定義と、乳製品加工へ大胆に事業展開を変える戦略を聞いて、戦略一つで中小企業の可能性が大きく広がることを学びました。

また、東日本大震災から15年を迎えた陸前高田市の事例では、震災直後に同友会メンバーが取った行動から、逃げない経営者の覚悟と地域の強さを改めて感じることができました。

会場を出る際、何気なく耳にした「来た人にしか分からない」という言葉に、全国大会に参加する意義を実感しま

した。これまで4年に一度ほどの参加でしたが、今後は少なくとも年に一度は参加し、学びを自社の経営にも生かしていきたいと思います。



アクア(株)山形営業所 統括本部長 青木 正芳 氏

第5分科会「企業づくりと地域づくりと一体として、仕事と雇用を生み出す」に参加しました。手塚 良太氏(有)テツカ精機 代表取締役)のお話を聞いて一番感じたのは、同友会で学んだことを「学んで終わり」にせず実践し、実際に地域の課題解決や雇用づくりにつなげている、その行動力のごさです。理念を軸に、全社員で経営に向き合い、地域の未来まで見据えて事業を展開している姿に、とても共感しました。

また、科学性・社会性・人間性を大切にしながら、会社と地域を一体で考える姿勢にも大きな学びがありました。特に「心持ち一つで変わる、他責にせず自分に矢印、全社一丸経営を目指す」という言葉が心に残りました。改めて経営者の責任と覚悟が重要だと再認識しました。私も自社の成長だけでなく、同友会型ビジョナリーカンパニーを目指し、地域に必要とされる企業づくりを実践していきます。

適材適所の「ハイブリッド活用」で課題を解決しよう

日々進歩を続ける生成AIは、中小企業においても課題解決の重要なツールとなりつつある一方で、利用方法によっては問題もはらんでいます。そういった背景をふまえ、3月4日、TISカンファレンスセンターにて組織委員会主催の「AI活用学習会」が開催され、オンラインも含めて50名が参加しました。(株)Connect Design 専務取締役 大槻真一氏を講師に迎え、「知識ゼロからはじめるAIハイブリッド活用～NotebookLMと生成AIで現場の困ったを3分で解決！～」と題して、実務での具体的なAI活用術についてお話しいただきました。



大槻氏は、AI活用失敗例の多くはAIを「魔法の杖」と思っているから起こってしまうと分析し、AIを適材適所で活躍するパートナーとしてとらえることを提唱しました。その上で、AIを活用するには「ハルシネーション」とセキュリティリスクへの理解が重要だと語ります。

「ハルシネーション」とは、AIが事実でないことを自信満々に回答する現象です。膨大なデータによって「次に来る確率が高い言葉」を数珠繋ぎにしているにすぎないというAIの性質上発生するもので、あくまでAIが出力した情報の事実確認は人間が行い、最終的な責任も人間側が持つという姿勢が求められます。

また、無料版のAIは入力された情報をAIの学習に利用することがあり、情報漏洩リスクがあります。そのため、情報漏洩リスクの高い情報とそうでない情報を分類して管理し、前者をAIで使いたいときは匿名化するなどといった対策が必要です。

実際に活用するにあたっては、大槻氏は各AIの得意分野を生かす「ハイブリッド活用」を提案。Google社が提供する二つのAIを例にとり、ネット検索も駆使してゼロから生成するのが得意な「Gemini」と、指定した資料のみを活用する正確さと、原則として情報を学習に利用しないのが特徴の「Notebook LM」を組み合わせることで、「NotebookLMで議事録から決定事項を抽出し、それをGeminiに渡してメール文を生成」のような、正確性と表現力を両立させる使用法を解説しました。

その他、「役割(あなたは～です)」「目的」「前提条件」「制約条件(文字数や形式)」を明示するプロンプト(指示)や、目的に応じたカスタマイズ(Googleの場合「Gem」サービス)等を行うことでさらに可能性が広がるとして、実際の活用事例として「社内規定検索システム」「ネット上の口コミ返信補助」「自社の経営指針書を解説するラジオ風音源」など、多彩な活用方法が紹介されました。

学習会では、実際にその場でAIを活用するデモンストレーションも実施。適切な資料準備とプロンプトによって短時間で情報の整理ができることを実感。大槻氏は最後に、大事な心構えとして「最初から100%を目指さない」ことを推奨。AI活用の第1段階として「業務マニュアルをNotebookLMに読ませて要点を訊いてみる」「ちょっとした調べものでもいいので、1日1回AIに触れる」といったところから、AI活用を習慣づけてリテラシーを高めていくことを提唱して締めくくりました。

実施後のアンケートでも「就業規則を読み込ませてみる」「マニュアル作りに役立てたい」など、活用のきっかけをつかんだという声が多くあり、参加者がAI活用の第一歩を踏み出す機会となりました。



山形県中小企業家同友会 第42回定時総会

2026年度
スローガン

10年ビジョン達成に向けて、付加価値の創造と共育で自ら未来を切り拓く

2026. **4.27** (月) 受付 12:30
開会 13:00

会場

ホテルメトロポリタン山形

山形市香澄町1丁目1-1 TEL 023-628-1111

参加費

第1部 定時総会 **無料**
第2部 基調講演・グループ討論 **3,000円**
第3部 懇親会 **9,000円**

※参加費には消費税が含まれます。

タイムテーブル

第1部	13:00~14:35	定時総会
	15:00~15:20	セレモニー
第2部	15:20~16:45	基調講演
	17:00~18:35	グループ討論
第3部	19:00~20:25	懇親会



講師 赤城フーズ株式会社 代表取締役社長
遠山昌子氏(群馬同友会・前橋支部会員)

- 設立: 1950年6月(創業1893年)
- 資本金: 2,000万円
- 社員数: 正社員22名、パート10名
- 事業内容: カリカリ梅をはじめとした食品製造業
- 所在地: 群馬県前橋市上大島町84番地

基調講演

会社を救ったのはやっぱりカリカリ梅だった!

~見方を変えれば 今あるものが再生のカギに~

赤城フーズが昭和46年に世界で初めて開発したカリカリ梅。業界の新旋風となったカリカリ梅も月日と共に価格競争の波にもまれることに。遠山氏が6代目として入社した頃、商品サイクルの衰退期となっていた。このままではカリカリ梅は終わる!?...そんな時に、世の中の真逆の発想からカリカリ梅に新たな役割を与えることに成功し、大ヒット商品を生み出す。宝塚歌劇団出身の経歴も生かしつつ、他社にはない切り口から迫る、赤城フーズとカリカリ梅の付加価値を上げる取り組みとは。遠山氏の講演から自社の強みを見つめなおし、社員と共に価値を磨き、高付加価値企業へと転換する機会としましょう。ご参加をお待ちしております。

第42回定時総会実行委員長挨拶



㈱ミートの元気商事
代表取締役
中村明美

この度、第42回定時総会におきまして、初めて実行委員長を務めさせていただきます、山形支部の中村明美でございます。大役を仰せつかり身の引き締まる思いですが、皆様と共に学びを深められるよう、精一杯努めてまいります。

今回の総会では、私自身が実際にお会いして深く感動し、その場で登壇を熱望した赤城フーズ株式会社の遠山氏をお招きし、基調講演を行います。

現在は変化の激しい、まさに激動の時代です。今回の講演は、単に「付加価値を付ける」と

いった表面的な手法に留まるものではありません。逆境の中で事業を盛り返す原動力となったのは、実は「もともと自社に備わっていた強み」であったという、実体験に基づいた本質的なお話です。

自社の商品やサービスの強みを今一度見つめ直し、磨き上げる。そして、それを社員と共に考える。そのプロセスこそが、この時代を勝ち抜く鍵になると確信しております。

皆様の会社がより一層幸せな未来を築けるよう、実り多き学びの場になりたいと考えております。会員の皆様はもちろん、ぜひお知り合いの方にもお声掛けいただき、一人でも多くの方にご参加いただければ幸いです。

皆様にお会いできることを、心より楽しみにしております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

各支部総会のお知らせ

第40回山形支部総会

講師: ㈱半澤鶏卵 代表取締役 半澤清彦氏

2026.5.26(火) 13:00~20:00

場所: 総会 山形県JAビル 山形市七日町3丁目1-16 ☎023-634-8170

懇親会 三十三間堂 山形市七日町1丁目4-31 山形メトロホテル ☎023-625-1111

第40回寒河江支部総会

講師: 拓殖大学 政経学部 教授 山本尚史氏

2026.5.7(木) 14:00~20:00

場所: ホテルシンフォニー本館 寒河江市元町1-3-13 ☎0237-86-2131

第32回さくらんぼ支部総会

講師: ㈱あじまん 代表取締役 佐藤友紀氏

2026.5.15(金) 16:00~20:00

場所: 未定

第30回置賜支部総会

講師: ㈱サニックス 代表取締役 佐藤啓氏

2026.5.19(月) 16:00~20:30

場所: ホテルモントビュー米沢 米沢市門東町3丁目3-1 ☎0238-21-3211

第22回庄内支部総会

講師: 拓殖大学 政経学部 教授 山本尚史氏

2026.5.8(金) 17:00~20:40

場所: グランド エル・サン 鶴岡市東原町17-7 ☎0235-24-4633

第12回新庄最上支部総会

講師: 調整中

2025.5.25(月)

場所: アクエユ マリエ TAMAHIME 新庄市金沢2136-1 ☎0233-23-1143

第11回理事会報告

◆日時:2026年3月11日(水)午後3時00分~午後4時50分 ◆会場:TISカンファレンスルーム ◆議長:小川副代表理事
◆出席者:(敬称略)西塔、川合、菅原、小川、庄司、佐藤、伊藤、長谷川、笹林、東海林、佐藤、高橋、菊地、大山、武内、前盛、島田、志田、井田、本多、鎌水、後藤(正)、事務局矢作、芳賀、青木、上遠野

■開会挨拶

菅原代表理事より「東日本大震災から15年。先日の岩手全研の全体会では、立ち上げ時に会員28名だった気仙支部が、震災を乗り越え、強い危機感をもって増強した結果130名の支部になっているという話があった。真綿で首を締められるようにじわじわと人口が減っている山形こそ、危機感を持たなければならない。岩手同友会の500名達成は、危機感や理事のリーダーシップで本物の結束感があるからこそ。10年ビジョン達成に向けて、次年度について皆で話し合ってください」と挨拶がありました。

■報告事項

- 2025年度第2回中間協社員教育委員会1/15~16(東京)3名
庄司副代表理事より「『経営指針の成文化と実践の手引き』の改訂、『第7回学生と先生のための中小企業サミット』の東京開催などの議題があった。そして、太田先生が「生きること、働くこと」と題して講義を行い、現代の若者は努力しても良くならないと感じて安定志向になっており、学ぶことや働くことについて青年期に教える重要性を、実際の学校の事例を絡めてお話しされた。働くことは自己実現であるとともに人のため、社会のためでもあるということ、を、会社と一緒に考えなければならないという問題提起があった。その後のグループ討論は「各支部で社員教育をテーマにした例会を行い、研修の参加が経営者の学びになることを伝えていくべきだ」とまとまった」と報告がありました。
- 2025年度第2回中間協女性部連絡会2/18(Zoom)4名
笹林部会長より「女性活躍とは単に女性を前に出すことではなく、一人ひとりが活躍できるような環境づくりであるということ、女性部の活動は女性のためだけの活動ではなく、企業や地域の未来を支える経営環境づくりという位置づけである、というお話があった。また、次の女全交の立候補についてグループ討論を行い、9月の連絡会で再検討することになった」と報告がありました。
- 第46回中間協青年部連絡会2/27(福島)2名
東海林部会長より「青全交の開催地決定の基準とフローについて説明があり、中間協の池田事務局長から「青全交誘致のためではなく、全県として常にこういった目標を持って欲しい」と提言があった。直近の青全交の参加数も選考にかかわるため、山形に近い秋田か新潟で開催される直後となる2029年の立候補を検討し、それに向けて増強も頑張りたい」との報告と合わせて、開催地決定基準について説明がありました。
- 第56回中小企業問題全国研究会3/5~6(岩手)24名
伊藤理事より「改めて庄司氏の報告から、三位一体の経営を丁寧に継続し、社員さんとの関係をつくってきた姿勢や覚悟が伝わってきた。二日目では岩泉ホールディングスの山下社長から講演をいただき、様々な施策で魅力を伝えることで、地域の中小企業も様々な広がりがあることを知ることができた。最後に陸前高田の会員によるパネルディスカッションがあり、「生きる、暮らすを守る、人間らしく生きる」という言葉が直観的に分かる内容だった。やはり実際に参加をしてみなければわからないことがある。ぜひ皆さん機会があればご参加ください」と報告がありました。
- 2025年度2月月次報告
矢作事務局長より報告がありました。
- 2025年度2月月次決算報告
矢作事務局長より報告がありました。

■承認事項(入・退会承認) 4名入会 2名退会 506名

■討議事項

議題1:今年度目標達成に向けて

- 組織委員会の報告
菅原代表理事より「さくらんぼ支部の事例からも分かること、支部内での関係性の構築が非常に重要であることを感じた。山形支部は目標を240名に下方修正し、確実に達成していくという話があった。目標達成に向け、年度末まで頑張ってください。また、これからSNSやHPを積極的に更新していくにあたり、各組織から広報委員会へ参加していただきたいと依頼があった」と報告がありました。
- 年度末の取り組みについて
e.doyu上で追加入会承認を行いたいとの提案があり、承認されました。
- 同友会を知る会の予定

日	時	会場	歴史と理念	体験報告
3月13日	15:00	同友会事務局	菅原代表理事	原田由理子
3月25日	14:00	にご・ひる(鶴岡)	後藤代表理事	林比呂子
4月10日	18:00	Daizy café	庄司副代表理事	本多作之助
4月13日	13:00	同友会事務局	菅原代表理事	齊加義三

議題2:法人化に関する件

川合代表理事より、「先月の理事会後、全会員に向けて法人移行へのお知らせと定款案を送付。賛成の返信が3件、定款案に関する意見が2名の会員よりあった。また中間協専務幹事よりも意見を頂いた」との報告と、修正を反映した定款案について提案があり、承認されました。

議題3:第42回定時総会議案について

- 2025年度活動のまとめ(案)
川合代表理事より、資料をもとに前回からの変更点について説明があり、次回理事会で承認を行うことが決定しました。
- 2026年度活動方針(案)
菅原代表理事より、資料を基に下記事業計画と方針の変更点について説明があり、次回理事会で承認を行うことが決定しました。
(事業計画)
 - 中間協役員研修会10/22~23 東海林実行委員長
 - 第42回定時総会4/27 中村実行委員長
 - 第22回経営研究集会 武内実行委員長
 - 2027新春交流会(置賜支部担当) 鎌水実行委員長
 - 新役員オリエンテーション
- 2026年度予算(案)
菅原代表理事より資料をもとに提案があり、承認されました。
- 役員(案)の確認
庄司副代表理事より資料をもとに提案があり、役員選考委員会への上程が承認されました。
- 役員選考委員変更の件

庄司 薫	齋藤 嘉廣	穂積 勇人	工藤 大輔
八代 昌弘	大矢 貴幸	樋渡 守	(敬称略)

庄司副代表理事より上記役員選考委員の提案があり、承認されました。

議題4:2026新春交流会のまとめ

長谷川理事よりまとめの報告があり、承認されました。

議題5:第42回定時総会について

志田副実行委員長が準備状況を報告し、「240名という高い目標ではあるが、集客にご協力をよろしくお願いします」と呼びかけました。

議題6:山形県教育委員会「やまがた教育パートナーズ」認定申請の件

- 団体登録について確認の報告
芳賀事務局次長より、前回議事を踏まえ県に確認した内容について報告がありました。
- 「やまがた教育パートナーズ」認定申請
登録方法、実際の運用、実務負担等の観点から検討し、申請する方向で進め、事務局から県に詳しい要項や申請内容を確認することになりました。

■その他

- 今後の予定
 - 3月18日(水)~19日(木)北海道東北ブロック事務局長会議(福島)
 - 3月19日(木)第4回中間協幹事会(Zoom)
 - 3月27日(金)第2期経営姿勢確立セミナー発表会
(TISカンファレンスセンター)13:00
 - 3月30日(月)経営指針をつくる会30期記念同窓会(山形国際ホテル)16:00
 - 4月2日(木)合同入社式・新入社員研修(流通団地会館)9:00
 - 4月27日(月)第42回定時総会(ホテルメトロポリタン山形)13:00
- 今後の常任理事会と理事会日程について

第12回常任理事会	4月1日(水) 16:00	第12回理事会	4月8日(水) 15:00
第1回常任理事会	5月8日(金) 10:00	第1回理事会	5月11日(月) 15:00
第2回常任理事会	6月1日(月) 16:00	第2回理事会	6月10日(水) 15:00

■開会挨拶

庄司副代表理事より「私が報告をするということで、岩手全研に多くの方にご参加いただきありがとうございました。次年度も全国で報告する方が出るような学びと実践を皆でやっていきたいと思います」と挨拶がありました。

新会員紹介

菅野 勝敏氏
MIZUkara 代表
水道設備業 山形支部

大江 智英氏
マハネット(株) 代表取締役
監視カメラ・事務機・事務用家具の販売 さくらんぼ支部

桜田 里香氏
(株)キャリアクリエイト
有料職業紹介事業 山形支部

今野 愛氏
(株)東北テレネット 経営戦略部長
電気通信・電気工業業 さくらんぼ支部

会員変更

- 愛和建設(株) 経営企画部課長 早坂 幸恵氏 ⇒ 営業部次長 川又 勇人氏(山形)
- 爪labo Bell Nail 代表 茂木奈々絵氏 ⇒ (株)パレッジ 代表取締役(庄内支部・鶴岡地区)
- (株)庄内エコポリス 代表取締役 佐藤 達也氏 ⇒ (株)エコポリス(庄内支部・酒田地区)

同友やまがた4月号(2026年4月1日発行/通巻397号)



“知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2161 山形県山形市大字漆山字大段1865-5 TISビルディング201
TEL (023) 615-8302 FAX (023) 615-8304
URL:https://yamagata.doyu.jp/ E-mail:info@yamagata-doyu.jp